

ゼニタナゴ

Acheilognathus typus (Bleeker)

全国カテゴリー；絶滅危惧 B類

【選定根拠】 全ての個体群で個体数が減少 全ての個体群で再生産能力を上回る捕獲圧に直面 産卵母貝の減少

【形態】 全長7～9cm。体高は高く、タナゴ類の中で、最も鱗が細かいのが特徴。産卵期の雄は、体の朱紅色が鮮やかになる。

【分布】 神奈川県以北の本州に分布していたが、神奈川県・東京都・群馬県などの野生個体群は絶滅した。他の生息地でも数を減らしている。

【県内の分布、生息状況】 2002年現在、3地点でのみ確認。個体数は、減少傾向にある。池沼、小河川などにすみ、秋にドブガイ等の二枚貝に産卵し、稚魚は翌年の春に貝から泳ぎ出る。

【生息に影響を与えている要因】 池沼開発 水路整備 河川開発 水質汚濁 密漁 帰化生物との競合（タイリクバラタナゴ） 帰化生物による捕食（オオクチバス、ブルーギル） 産卵母貝の減少

【特記事項】 確認地点の他にも目撃情報があるので、今後の調査により新生息地の発見が望まれる。本種のみではなく、ドブガイ等の産卵母貝の保護も必要。今後、官民一体の保護活動が望まれる。

【生息データ件数】 3

【主要文献】

稲葉 修(2000)福島県浜通りで確認されたゼニタナゴ 福島生物(43)：13-18.